

## 東北地整管内における冬季の災害対応について

東北地方整備局 防災グループ

12月中旬以降、冬型の気圧配置や強い寒気の影響により全国各地で大雪となり、新潟県内の国道8号及び国道17号や、三重県・滋賀県県境部の新名神高速道路では大規模な車両滞留が発生したほか、鉄道の立ち往生や、停電や断水等のライフラインの被害も相次ぎました。

東北地方整備局管内でも日本海側を中心に大雪となり、福島県や山形県では「顕著な大雪に関する気象情報」も発表され、直轄管理道路でも吹雪による視界不良や集中除雪のための全面通行止めを実施するなど、雪害の対応を行っています。

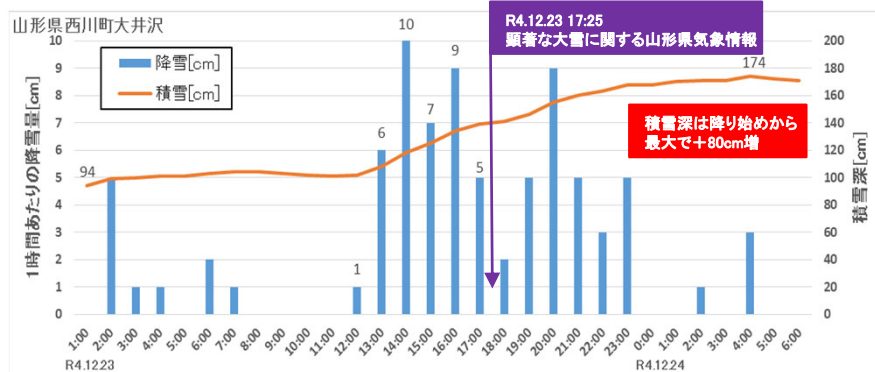
また、12月末に発生した山形県鶴岡市の土砂災害においては、鶴岡市からの支援要請を受け、TEC-FORCE等を派遣しました。

### ○令和4年12月23日からの降雪

冬型の気圧配置が強まり、全国的に大雪となりました。日本海上にはJPCZ（日本海寒帯気団収束帯）が発生し、東北地方では山形県を中心に大雪となり「顕著な大雪に関する気象情報」が山形地方気象台から発表されました。

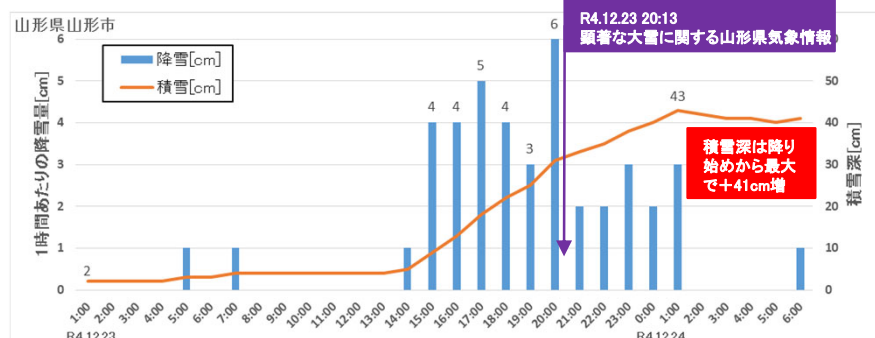
東北地方整備局災害対策本部では「警戒体制」を発令、岩手県・秋田県の国道46号仙岩道路及び山形県の国道112号月山道路では「集中除雪による予防的通行規制」を実施しました。

あらかじめ規制予定日時、区間等の周知を図り、計画的な通行規制で集中的な除雪作業を行い、車両滞留等は発生しませんでした。また、事前に周知されたことから、苦情の発生はほとんどありませんでした。



**R4.12.23 17:25**  
顕著な大雪に関する山形県気象情報  
[山形地方気象台発表]  
R4.12.23 17:00までの6時間に山形県西川町大井沢で38cm、金山で36cm、小国で29cm、大江町左沢で27cmの記録的な降雪を観測

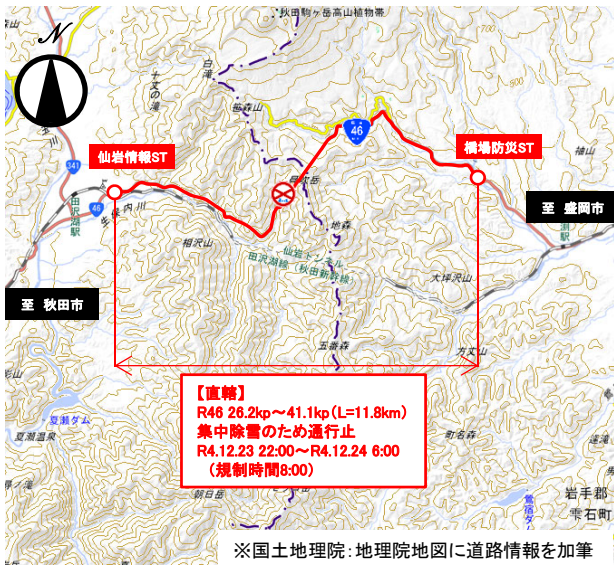
▲R4.12.23～24【山形県西川町大井沢】1時間あたりの降雪量及び積雪量[気象庁HPを元に作成]



**R4.12.23 20:13**  
顕著な大雪に関する山形県気象情報  
[山形地方気象台発表]  
R4.12.23 20:00までの6時間に、山形県山形市で26cmの記録的な降雪を観測

▲R4.12.23～24【山形県山形市】1時間あたりの降雪量及び積雪量[気象庁HPを元に作成]

東北地方整備局管内における災害対応状況



▲国道46号 通行止め位置図



▲国道112号 通行止め位置図

○山形県鶴岡市の土砂災害

令和4年12月31日（土）未明に、山形県鶴岡市西目において大規模な土砂崩れが発生し、高さ約20m、幅約170mにわたり、土砂約20,000m<sup>3</sup>が崩落しました。

建物17棟が巻き込まれ、1世帯2名が安否不明となったため、警察・消防・自衛隊による最大200人規模の捜索活動が実施されました。

鶴岡市からの支援要請を受け、東北地方整備局災害対策支援本部は「警戒体制」を発令し、TEC-FORCE・リエゾンを派遣して、ドローン等による被災状況調査を実施しました。

また、緊急かつ24時間体制で行われる救助活動に対し、照明車2台を派遣するとともに、現地状況を確認できるCCTV画像等を山形県及び鶴岡市に伝送し、リアルタイムで情報共有を図りました。リエゾン活動が迅速に行われたことを含め、情報共有が速やかに行われたことに評価をいただきました。



▲現地被災状況写真(令和4年12月31日 UAV撮影)

東北地方整備局管内における災害対応状況



▲被災箇所の状況（令和5年1月1日）



▲被災状況映像配信（令和4年12月31日）



▲照明車稼働状況（令和5年1月2日）



▲TEC-FORCE現地打合せ（令和5年1月2日）



▲鶴岡市災害対策本部会議（令和5年1月2日）



▲鶴岡市皆川市長にTEC活動内容を説明（令和5年1月2日）

## TOPICS

2022年

岩手

水防技術講習会

令和5年度

北上川上流総合水防演習に向けて

令和4年11月 水防技術講習会に参加

～ 防災エキスパート活動 ～

岩手支所では、令和5年度に予定されている『北上川上流総合水防演習』に先立ち、岩手河川国道事務所からの依頼により、昨年11月、磐井川の右岸河川敷（一関市磐井町地先）で行われた水防技術講習会（事前練習会含む）において、2回にわたって水防技術の指導を行いました。技術指導の講師としては、防災エキスパート菅原信雄さんのご協力により実施いたしました。今回は、その概要について紹介します。

### 【水防技術講習会事前練習会 実施日：令和4年11月15日(火)】

水防技術講習会に先立ち、国交省職員及び防災エキスパート他を対象として、縄結び及び各種水防工法の練習会を実施しました。防災エキスパート5名、国交省職員、維持業者、協会職員等27名、総勢32名が参加しました。縄結びでは、菅原講師（(株)シビル設計 顧問）の手さばきに感心しながら、また、月の輪工、シート張り工では細部の注意点などを指導していただきながら各自練習に励みました。防災エキスパートの方々も苦戦しながらの訓練となりました。

（講習内容：各種縄結び、土のう拵え、月の輪工、シート張り工）



▲ 縄結びの指導



▲ 月の輪工の指導



▲ シート張り工の指導

### 【水防技術講習会 実施日：令和4年11月20日(日)】

講習会は、水防団等への指導として開催され、防災エキスパート6名、国交省職員、秋田県、福島県、一関消防本部、水防団(2団体)、協会職員等の47名(計53名)の参加で実施されました。事前練習会同様、菅原講師の指導のもと他の防災エキスパートの方々も支援役として活躍しました。



▲ 縄結びの指導



▲ 月の輪工の指導



▲ シート張り工の指導

※『北上川上流総合水防演習』の開催予定日は令和5年5月21日(日)となっており、防災エキスパートの協力も依頼されているところです。本番では更に多くの防災エキスパートの参加が必要となりますので、準備を進めているところです。

## 令和4年度 防災エキスパート活動状況

令和4年度の活動実績は、2月末現在、520名（平常時493名、災害時27名）となっております。コロナ禍ではありましたが、感染対策等の工夫により平常時の活動が例年に比べて多くなっております。活動へのご協力、ありがとうございました。

活動 エリア	災害時	平常時							計
		重要 水防	緊急 シミュレーション	堤防 点検	合同 点検	水防 演習等	危機管理 訓練等	意見 交換会等	
青森県	11人	13人	6人	10人	-	9人	3人	58人	99人
岩手県	6人	16人	3人	-	11人	11人	12人	22人	75人
宮城県	8人	5人	17人	67人	-	14人	4人	33人	140人
秋田県	1人	-	11人	16人	-	-	8人	40人	75人
山形県	1人	4人	7人	-	1人	-	4人	25人	41人
福島県	-	-	2人	25人	-	-	2人	21人	50人
本局・協会	-	-	-	-	-	-	-	13人	13人
合計	27人	38人	46人	118人	12人	34人	33人	212人	493人

### 【防災エキスパートとの意見交換会の実施】 ※R5年1月以降の開催状況

意見交換会	開催 月日	参加人数		
		事務所	防災EP	合計
秋田河川国道事務所(道路)	R5.2.16	12人	17人	29人
北上川下流河川事務所	R5.2.28	19人	16人	25人



▲ 2.28 北上川下流河川事務所

## 事務局報告 <第9回 防災活動支援検討会>

令和5年2月21日、当協会3F会議室において防災活動支援検討会を開催しました。防災活動支援検討会（平成30年1月設置）は、時代の変化に対応した「防災エキスパート体制のあり方」や「支援体制の再構築」を図る事を目的に設置され、今回で9回目の開催となります。

これまで、TEC-FORCE活動計画（東北地方整備局）と連動した「大規模災害時における広域派遣活動計画」の策定や「長期派遣に係る所属企業との協力協定（給付金制度）」等の検討を行ってきました。

会議は、委員11名の防災エキスパートの方と東北地方整備局の防災グループから佐藤徳男総括防災調整官、田中昇防災管理官、河川部から齊藤正道水災害予報センター長、道路部から大村敦道路情報管理官の参加を頂き、「防災エキスパート活動体制の再構築」、「技術の伝承体制」などの議事について活発な意見交換が行われました。



## 令和4年度 防災エキスパート新規登録者紹介

令和4年12月2日、**防災エキスパート新会員として2名**の方が新たに登録されました。

12月2日現在の登録者数477人、防災エキスパート所属企業協定締結法人は、156法人となりました。また、災害時の広域派遣登録者も142人となり体制の強化が図られています

番号	氏名	登録県	登録事務所
1	菊地 淳夫	岩手	岩手河川国道、水沢国道維持（出）、水沢（出）、花巻維持（出）
2	富岡 繁則	青森	青森河川国道、十和田維持（出）、小川原湖（出）

よろしくお祈いします!!

### 編集後記

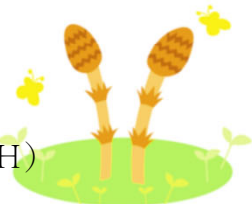
水平間隔を失ったかのような激しい揺れと、目を疑う巨大津波が街を襲ったあの日から12年が経ちました。

3月11日、天気が良かったこともあり、家族でドライブを兼ねて沿岸部の被災地に足を運んでみました。朝一に福島県の浪江町まで常磐道で南下し、一般道で宮城県の松島町までの沿岸部を北上しました。震災伝承施設や道の駅を経由し、途中で通る復興した街並みや右手に見える海は春色の穏やかな日差しでいつもより輝いて見えました。

名取市の閑上地区（名取川右岸河口）に整備された「かわまちテラスてらす閑上」で遅めの昼食をとった後、更に北上して仙台港パークで休憩している時に地震が起きた午後2時46分になりました。港の方から鎮魂を込めた何隻かの大型船の長い汽笛が耳に重なるようになってきました。あの日の悲惨な大災害を思い出し涙を我慢しながらの黙祷となりました。改めて、あの悲惨な経験を忘れることなく、未来につなげていかなければと感じた時でした。

私もそうですが、震災の経験者は3.11を決して忘れる事はできません。しかしながら、あの日からたったの12年しか経ってませんが、時の経過は震災を知らない世代に少しずつ移り変わっています。未曾有の大災害を風化させることなく、防災に活かすために各地に整備された震災伝承施設の役割はとて大きいと感じます。偶には家族や仲間と復興した街や震災伝承施設に足を運ぶことで、風化させない取り組みの一役になればと思っています。

(H・H)



防災エキスパート事務局

(一般社団法人東北地域づくり協会 防災技術部)

TEL : 022-268-4711

FAX : 022-227-5244

E-mail : bousai-exp@kyokai.or.jp